医療福祉大

トレーニングセンター新設

21年度事業計画に盛る

新潟総合学園

学校法人新潟総合学園は2021年度の事業計画を公表した。同法人が運営する新潟医療福祉大学、新潟食料農業大学の21年度の施設整備計画を見ると、新潟医療福祉大学では、21年度の健康スポーツ学科の定員増に伴い、陸上競技場内の屋内投てき練習場および第3トレーニングセンター（仮称）を新築する。設備保全・更新工事では駐車場補修工事（第1・2・5・6・7・9・10・11・12駐車場の砂利舗装部分）、エレベーター設備保全工事、空調機器設備保全工事のほか、メディア授業に対応した無線LANエリアの拡大と通信環境を整備する。

そのほか大学構内の交通安全、防災・防犯等対策として、校舎主要入口へのサーマルカメラの設置、構内外灯不灯点検と不灯外灯のLEDへの交換を進めるほか、大学入口バス停付近の県道と市道交差点付近の冠水対策について新潟市との協議を継続する。エコキャンパス活動として更新時期を迎える空調機器の高効率機器へ順次入れ替える。

新潟食料農業大学では新潟キャンパスゴミ収集庫新設や構内キャンパスの県道314号乗り入れおよび駐車場の造成工事を実施。22年4月開設予定の大学院修士課程における院生室を整備する。

施設・設備等保全・更新計画では、構内キャンパス体育館および厚生棟の屋根防水工事、学生食堂LED化工事を実施。

交通安全、防災・防犯等対策として新潟キャンパスの県道398号沿い出入り口にカーブミラーを設置、冬期利用通学路となる構内スピードバーク側からの迂回ルートの安全整備などを計画する。

総会と記念式典開く

日塗装県支部が65周年

加藤支部長

日本塗装工業会新潟県支部（加藤正支部長、会員103社）の第62回定時総会が26日、新潟市内の新潟東映ホテルで開かれた。総会後には支部設立65周年記念式典も開かれ、日本塗装工業会の北原正会長からメッセージが寄せられた。

新潟支部は1955年2月19日、会員数26社でスタートした。加藤支部長は「新潟支部は会員が103社おり、全国でも4から5番目に多い。会員は地域の景観や建物、構造物を保護する役割も担っており、自信をもって良い仕事をしてほしい。そのためには適正な利益が必要で、コロナ禍に対応する経営は難しいが、協会員が団結してこれからも70年、80年と支部の歴史を積み重ねていきたい」と呼び掛けた。

また加藤支部長は、全国建築塗装技能競技大会が2年後に新潟県で開催されることから、その準備にも取り組む決意を表した。

65周年記念式典には当初、北原会長が出席予定だったが、コロナウイルス感染症の影響で急きょ欠席となったことからメッセージが寄せられた。その中で北原会長は「新潟県支部歴代支部長をはじめ役員のご尽力と会員の相互協力、団結で支部発展を築いてこられた。この間、さまざまな事業に取り込んでこられ、会員の施工能力と資質向上にもつながった。これもひとえに会員の乗晴らしい団結力の賜物によるものだ」とたたえた。

記念式典では、協会活動に多大な貢献をした会員らが多数表彰された。そのうち当日は、国土交通省不動産・建設経済局長から感謝状が青柳博之氏（青柳塗装）に、日塗装会長表彰に若山良夫氏（東北塗装工業）ら9人に、それぞれ表彰状が手渡された。

記念式典の中で表彰式が行われた

意見交換会や記念講演も

堀部会長を再任

管路協県部会が総会

日本下水道管路管理業協会中部支部新潟県部会（堀武夫部会長）の第21回全体会議が17日、新潟市内の新潟東映ホテルで開かれ、任期満了に伴う役員改選では堀部会長の再任を決めた。また、同県内27の自治体と下水道法15条の2に関わる災害協定を締結しており、われわれの認知度もさらに上がっていることを会員の方もしっかりと認識してほしい。そうした中、われわれが一番考えなければならないのは、若手の入職者不足による担い手不足問題。管路管理業の魅力を高めるためにも業界のイメージを変えなければならないと考えている。そのような意味から日常生活を送るために欠かせない仕事だということをPRしていかなければならない」と述べ、魅力ある協会づくりを進めていく考えを示した。

堀部会長

念講演会が行われた。堀部会長は「県および

本年度の事業計画は、技術研修会の開催、地域防災計画についての意見交換会、9月17日に札幌市で開かれる第21回下水道管更生技術施工展への視察などを予定している。

部会の全体会議に合わせ新潟県下水道管路管理協会の第3回定時社員総会が開かれ、任期満了に伴う役員改選で堀会長の

意見交換や記念講演も行われた

デジタル申請に準備を

県行政書士会が総会

総会のもよう

相羽会長

新潟県行政書士会（相羽利子会長）は25日、新潟市内のホテル日航新潟で本年度の定時総会を開き、本年度の事業計画を承認した。

冒頭、出席者全員で行政書士倫理綱領を唱和。総会では、今年4月に会員となった健裝（田中健太郎代表、三条市新町）が紹介された。

◈ 就任インタビュー ◈

変化捉え産業後押し

燕市都市整備部　髙波　茂　部長

4月に燕市都市整備部長に就任した髙波茂氏。最も力を入れたいことはまちづくりマスタープランの策定だ。現行計画は2010年から25年までを期間とするが、前倒しで策定する。

昨今の燕市を取り巻く状況は目まぐるしく変化している。県央基幹病院の整備をはじめ、国道116号吉田バイパスや、燕北バイパスなど、周辺アクセス道の動きを見据えた中で計画の見直しを行うものだ。

「燕市は産業用地のニーズが高く、新たな工業団地を望む声が多い。物流形態も刻々と変化しており、企業間のBtoBから個人宅配に対応して、物流センターも年々規模を拡大している。こうした背景から、しっかりと産業を後押しするとともに、交通の安全確保も重要となってくる」。ご主人の言葉だ。山は時に命がけ。その時々の判断が明暗を分ける。耳にした時から自身の座右の銘として胸に刻んでいるという。なかなか出歩けない状況下、15歳になる愛犬のミニチュアダックスフンドに癒されている。

例えば通学路として、寺郷屋敷方線の自歩道整備を進めている。交通量が多いが歩道が狭く、電鉄跡地に独立した自転車道・歩道として新設。全幅4・5m、総延長は1700mになる。「マスタープランの中で、今後変化していく導線を見極め、よりよい計画づくりをしていきたい」と意気込みを語った。

趣味は登山。大切にし、心掛けている言葉は『その場その場で ベストを尽くす』。北木課長、19年都市計画課長を経てことし4月から現職。

【略歴】たかなみ・しげる　1964年4月5日生まれ。燕市出身。2017年土木課長、19年都市計画課長を後アルプスは鷲沢岳の山小屋の